

送

三年 筆順 〃 送 送
〇 ソウ
フ おく いる

成り立ち



「もし火を左右の手にもった形をあらわした『火』と『辵』を組み合わせて作った字です。

「くらしい夜の道を、」ともし火をりよう手にもって「おくる」ことをあらわした字です。「人」を「おくる」こと

「ものを「おくる」（『送金』『運送』）ことにもつか

「また、「音や風を「おくる」（『放送』『送風』）ことにもつかわれます。

使い方

▽おじさんの家へあそびに行きました。帰る時には、おじさんとおばさんが、近くのえきまで送ってくれました。

▽ぼくのおにいさんは東京の大学へ行っています。おかあさんは、おにいさんに、まい月、送金しています。

熟語例

▽送金（お金を送ること。また、その送るお金）

▽送迎（人を送ったり迎えたりすること。「幼稚園の送迎バスにのって行った」などというふうに、つかいます。）

▽送別（別れていく人を送ること。「友だちが、遠くへ引っこして行くので、送別会をひらいた」などというふうに、つかいます。）

▽放送（ラジオやテレビなどで、電波で、ニュースやスポーツばん組などを送ること。「NHKの放送局を見学した」などというふうに、つかいます。）

▽送風（風を送ること。風を送る機械のことを『送風機』といいます。）

想

三年 筆順 十 相 相 想
〇 ソウ・ソ
ク

成り立ち



「よく見る」といういみの「相（3年353）」と、「心（2年167）」を組み合わせて作った字です。

「目で物をよく見るように、心の中に『思』えがく」とを表現した字です。「思いうかべる」こと、「考える」こと

「また、「思い」「考え」といういみにも使われます。」

「例」 思想、空想、理想、着想。

使い方

▽わたしは、よく、いろいろなことを想像します。この宇宙の果てはどんなふうになっているんだろうとか、生命はどうして誕生したんだろうとか、考えるのです。でも、そんなに深く想像するわけではありません。ただ、いろいろなことを空想するのが楽しいだけなのです。

熟語例

▽想像（実際にはわからないことを、心の中で思い浮かべること。「竜は想像上の動物です」とは、実際にはいないで、心の中に思いえがいた動物、といういみ）

▽連想（あることから、関連のある別のことを思い浮かべること。「雪からアイスクリームを連想した」などというふうに、つかいます。）

▽予想（先のことをあらかじめ考えること。「予想があたった」などというふうに、つかいます。）

▽思想（人生や社会などについての考え）

▽空想（現実にはないことについて、あれこれと思いつたこと。またその考え。「自分がスーパーマンになったという空想にふけた」など）

使い方

▽わたしは、よく、いろいろなことを想像します。この宇宙の果てはどんなふうになっているんだろうとか、生命はどうして誕生したんだろうとか、考えるのです。でも、そんなに深く想像するわけではありません。ただ、いろいろなことを空想するのが楽しいだけなのです。

熟語例

▽想像（実際にはわからないことを、心の中で思い浮かべること。「竜は想像上の動物です」とは、実際にはいないで、心の中に思いえがいた動物、といういみ）

▽連想（あることから、関連のある別のことを思い浮かべること。「雪からアイスクリームを連想した」などというふうに、つかいます。）

▽予想（先のことをあらかじめ考えること。「予想があたった」などというふうに、つかいます。）

▽思想（人生や社会などについての考え）

▽空想（現実にはないことについて、あれこれと思いつたこと。またその考え。「自分がスーパーマンになったという空想にふけた」など）